

クロバネキノコバエ科 Sciaridae

ver. 2019/01/17



クロバネキノコバエはクロキノバエともクロカとも呼ばれる一群で、体長が数ミリ以下の小さなハエの仲間です。「日本昆虫目録第8巻」(2014)によると、日本には11属113種が記録されていますが、おそらく未記録種が多いのではないかと思います。文献[1]によれば、このハエの幼虫はたいてい土壌中や朽木に生息し、腐敗した植物質などを食しているようです。キノコという名前がついていますが、キノコを食するものはそれほど多くはなさそうです。しかし、作物の根や芽、球根などを食害するため、害虫としても知られています。成虫は薄暗い林内に生息するようですが、冬になると私の住むマンションではちよこちよこ姿を見せ始めます。以前から、せめて属くらいは調べたいなと思っていたのですが、小さいのと資料が少ないのでずっとそのままになっていました。でも、最近、資料を送っていただいたので、やっと検索できるようになりました。まだ、合っているかどうかは怪しいのですが、これからぼちぼちと調べていきたいと思っています。

[1] Sutou(2004): 須島充昭、「日本産Sciara属群(双翅目、クロバネキノコバエ科)の系統分類学研究」、博士論文、横浜国立大学(2004). ([ここからダウンロードできます](#))

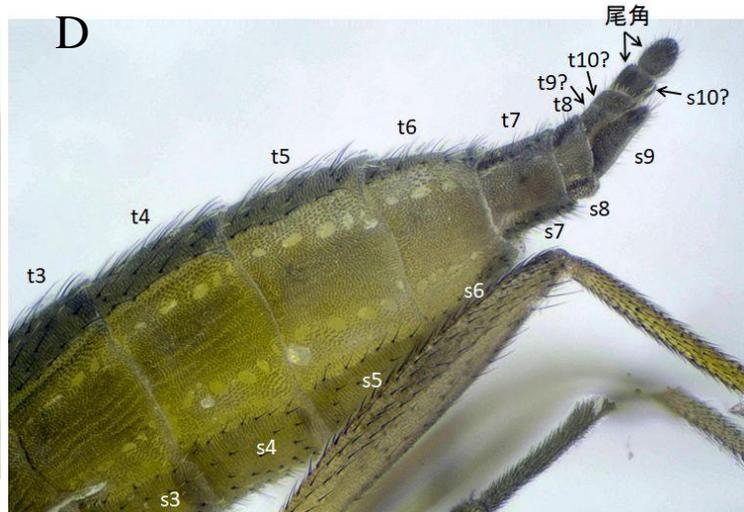
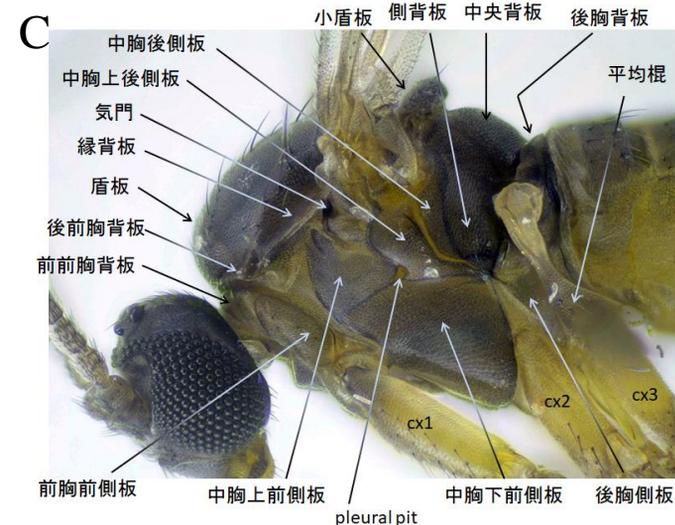
クロバネキノコバエ科の検索と特徴

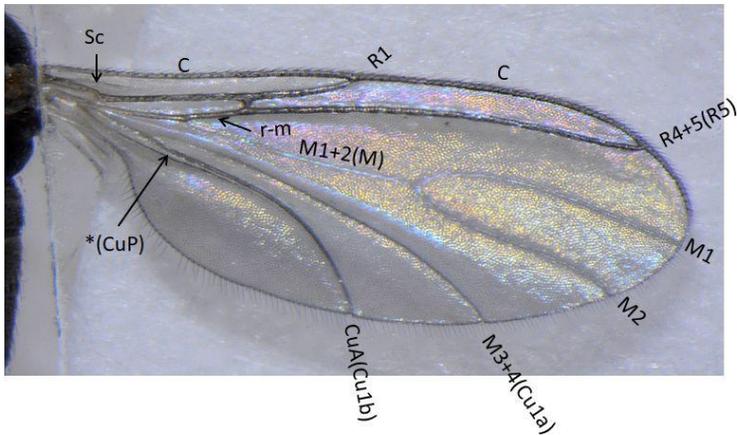
「絵解きで調べる昆虫」(文教出版、2013)の中
の笹川満廣氏の「双翅目昆虫の絵解き検索による分類」によると、クロバネキノコバエの科の検索は次のような手順で進みます。

- ①長角亜目
- ②ガガンボ類以外(胸背にV字型のしわがない)
- ③翅に二次脈はない
- ④C脈は翅を全周しないで途中で止まる
- ⑤中室はない
- ⑥単眼はある
- ⑦中・後脛節末端に距刺がある
- ⑧第2基室は開く
- ⑨眼橋がある

下の写真は顕微鏡で撮影した各部の拡大写真です。Aは顔面、Bは後頭です。Bでは眼橋がうまく写っています。このように左右の複眼が伸びてくっつくタイプの眼を持つものとしてはタマバエ科やニセケバエ科などがあります。Cは胸部側面、Dは腹部側面です。こんな風に尾が尖っているのは♀なのですが、末端のあたりははっきりしません。各部の名称は[2]と「新訂原色昆虫大図鑑III」を参考にしました。

[2] F. Menzel, "Revision der paläarktischen Trauermücken (Diptera, Sciaridae) unter besonderer Berücksichtigung der deutschen Fauna", Dissertation, Universität Lüneburg (1999). ([ここからダウンロードできます](#))





翅脈の名称は文献[2]を参照しましたが、「新訂原色昆虫大図鑑III」の解釈と異なるときはカッコ外は後者にカッコ内は[2]の方式を入れています。

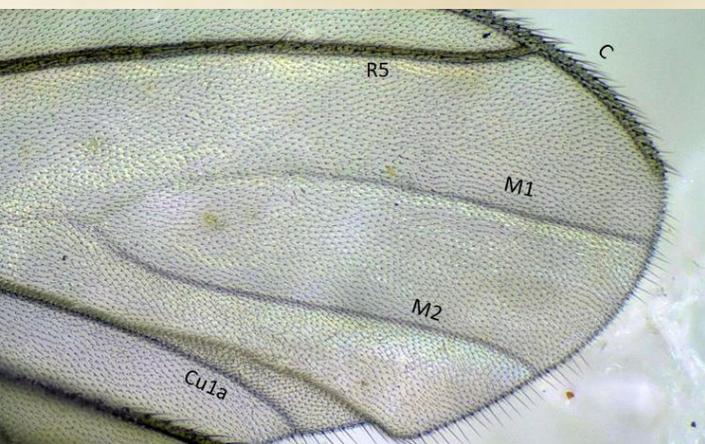
CIJ (2014)	MND (1981)	MCAD (2009)	CMPD (2000)	Menzel (1999)	Sasakawa (2003)	Sutou (2004)
<i>Allopnixia</i>			○	○	○	
<i>Bradysia</i>	○	○	○	○	○	
<i>Camptochaeta</i>				○	○	
<i>Chaetosciara</i>	○	○	○	○	○	○
<i>Corynoptera</i>	○	○	○	○	○	
<i>Cratyna</i>		○	○	○		
<i>Ctenosciara</i>		○	○	○	○	
<i>Keilbachia</i>		○	○	○	○	
<i>Leptosciarella</i>		○		○	○	○
<i>Lycoriella</i>	○		○	○	○	
<i>Mohrigia</i>				○	○	
<i>Phytosciara</i>	○	○	○	○	○	
<i>Pnyxia</i>	○		○	○	○	
<i>Pseudolycoriella</i>		○		○	○	
<i>Scatopsciara</i>	○	○	○	○	○	
<i>Schwenckfeldina</i>	○	○	○	○		○
<i>Sciara</i>	○	○	○	○	○	○
<i>Scythropochroa</i>	○		○	○		○
<i>Trichosia</i>			○	○	○	○
<i>Xylosciara</i>			○	○		
<i>Zygoneura</i>	○		○	○	○	

日本産クロバネキノコバエ科の属の検索に適切な文献を調べてみました。左端の列は「日本昆虫目録第8巻」に載っている属名です。第2から第4列は検索表が載っている文献で、その中でどの属が扱われているかを○で示しました。また、後半の3列は属の特徴が載っている文献です。文献は以下の通りです。

CIJ: 日本昆虫目録編集委員会、「日本昆虫目録第8巻双翅目」、樺歌書房(2014); MND: Manual of Nearctic Diptera Vol. 1 (1981). ([ここからダウンロードできます](#)); MCAD: Manual of Central American Diptera Vol. 1 (2009). ([ここで一部読むことができます](#)); CMPD: F. Menzel and W. Mohrig, "2.6 Family Sciaridae", in L. Papp and B. Darvas (eds.), "Contributions to a Manual of Palaearctic Diptera (with special reference to flies of economic importance)", Vol. 2 Nematocera and Lower Brachycera, Science Herald, Budapest pp. 51-69 (1997); Menzel(1999): F. Menzel, "Revision der paläarktischen Trauermücken (Diptera, Sciaridae) unter besonderer Berücksichtigung der deutschen Fauna", Dissertation, Universität Lüneburg (1999). ([ここからダウンロードできます](#)); Sasakawa(2003): 笹川満廣、「日本産双翅目ノート2」、Jpn. J. Ent. (N. S.) 6, 119 (2003). ([ここからダウンロードできます](#)); Sutou(2004): 須島充昭、「日本産Sciara属群(双翅目、クロバネキノコバエ科)の系統分類学研究」、博士論文、横浜国立大学(2004). ([ここからダウンロードできます](#))

*Bradysia*属? の一種

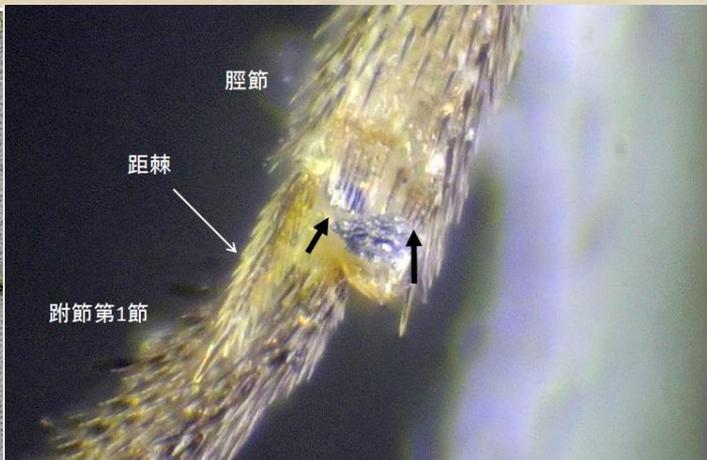
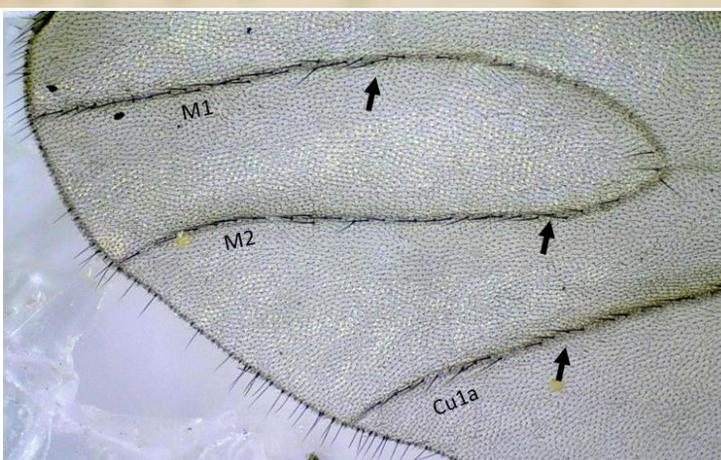
2018/12/21



体長は2.2mm、前翅長は2.2mm。CMPDに載っている検索表で検索した結果、*Bradysia*属らしいことが分かった個体です。♀だったので、残念ながらその先の種群や種までは調べることができませんでした。この属の特徴は、①中・後脛節には常に等長の末端距を具える、②前脛節の前側先端には強い楕状の剛毛列がある(写真右下、黒矢印)、③翅のM脈とCuA脈にはマクロトリキアはない(写真左下); 跗節爪には歯がないことなどがありますが、いずれも生態写真では判別は難しいです。ブログと別冊に各部の拡大写真と検索の詳細を載せました。

*Ctenosciara*属? の一種

2018/12/21



体長2.4mm、前翅長2.5mm。CMPDに載っている検索表で検索した結果、*Ctenosciara*属らしいことが分かった個体です。前種と同様、これも早です。この属の特徴は、①中・後脛節には常に等長の末端距を具える、②前脛節の前側先端には強い楕状の剛毛列がある(写真右下、黒矢印)、③翅のM脈とCuA脈にはマクロトリキアがある(写真左下、黒矢印)；跗節爪には歯がないことなどです。検索表の詳細はブログと別冊に載せてあります。



クロバネキノコバエ科では前々ページのような胸背が黒く、腿節が薄色の個体の他、前腿節のみ淡色の個体(A)、腿節が黒色の個体(B)、触角の太い個体(C)、触角の長い個体(D)などが見られていますが、いずれもまだ調べておりません。



Aは交尾中の個体で、BとCは♂の個体です。♂は腹部末端に把握器を持っています。どういうわけか、これまで撮ってきた写真を見ると♀が圧倒的に多い気がします。これについてはMNDに少し書かれていました。クロバネキノコバエ科の性比は種によって大きく変化し、場合によってはy染色体のないものもあるので、♀ばかりということもあるそうです。